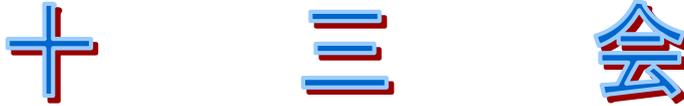


さわやか大学校 13 期会 会報(第 7 号)

平成 24 年 3 月発行

発行責任者 会長 吉田祐子

The Thirteen Circle



ごあいさつ

会長 吉田 祐子

今年の夏は、猛暑で熱中症多発の長い夏が終わったかと思うと、いきなり寒くなり酷寒の時期となって、気候の激しい変動が世界に広がり、大きな災害となった 1 年のようです。

2011 年の国内 10 大ニュースの第 1 位は、日本列島が炸裂するかのような東日本大震災です。恐怖の津波で多数の死者、行方不明者を出し、家屋崩壊や全ての建造物が流失さらに何もかもなくなった生存者に襲い掛かったのが福島原発事故、放射能の飛散で生活圏を失い、故郷を離れざるを得なくなった人々を思うと心が痛みます。災害の恐怖を忘れてはいけないと思います。

さて、私達さわやか大学 13 期 OB 会の 1 年を振り返って見たいと思います。

10 大ニュースの感じでまとめてみました。

- ① 小堀良信さん(5 班)の死 心から哀悼の意を申し上げます。
- ② 筑後川温泉 1 泊旅行 見学が主流のなか、親睦が深まった 2 日間
- ③ 13 期研修会(介護保険ワンポイント講座) 他期の受講者が多く好評
- ④ 各期の研修会に年間通して参加協力が多く、学習意欲に燃えている。
- ⑤ 新年会は多数の参加で、芸達者で賑やかに♪青春時代の真ん中で・・・
- ⑥ グラウンドゴルフ年間通して楽しみ、健康増進に励む
- ⑦ ウオーキングも計画的に実施出来た・・・参加者が増えるように
- ⑧ 十三期会会報第 7 号発行
- ⑨ OB 会員が減少するのは心苦しい。でも復帰や新加入者が居て嬉しい
- ⑩ 13 期 OB 会員の活動トップなり

✕ 会員の皆さんの明るさ・若さ・和やかさ、そして温かいご支援とご協力のお陰で平成 23 年度も最高の気分で終わります。

✕ 事務局長の寺本さんが OB 会の中核となって運営全てにご尽力頂きました。

✕ 理事会の役員の方々は、それぞれの役目を果たされご苦労さまでした。

✕ 私は、何も出来ない大役の会長でしたが、さわやか OB が大好きです。

いつまでも何時までも大好きで、会の活動に頑張ります。

最後に、OB 会員の益々の健康と諸活動が盛り上がりますように、会の繁栄を心から願い、更なるご協力を宜しくお願い致します。

「事務局便り」

寺本 秀信

2011年3月11日東日本大震災で生々しく明けた平成23年度でした。

総会時に「東日本大震災救援金募金箱」を置き、皆様のご厚意 7,077円を熊本日日新聞・RKK・熊本善意銀行を通じて「熊本さわやか大学13期OB会」として送金したところであります。平成23年の漢字は「絆」と決まりました。歴史に残る東日本大震災での甚大な被害と反面女子ワールドサッカーで「なでしこジャパン」が優勝するなど、悲喜交々の卯年でしたが、オリンピッククイヤーの辰年には1日も早い被災地の復興を願っているところです。

各理事及び会員の皆様にご協力を頂き無事に平成23年度を終え、第8回総会(平成24年度)を開催できましたことに感謝申し上げます。

平成23年度の行事の流れや諸々につきまして少し触れて見たいと思います。

1、行事の流れ

- ① 第7回総会＝4月18日(月) 14:00～ 県民交流館パレオ10階7号室
出席35名、委任状18名、欠席5名、合計58名
- ② 研修会＝8月26日(金) 13:30～ 県福祉センター5階研修ホール
13期の出席38名(44%)、さわ大OB全体で87名の出席
講師：熊本市高齢介護福祉課 主幹兼認定給付係長 益田勝行氏
演題：介護保険ワンポイント講座
- ③ 一泊旅行＝11月28日～29日(月・火) 参加22名(男性11名、女性11名)
行程：① 熊本市民会館→高速道熊本IC→日田IC→サッポロビール日田九州工場見学と試飲→昼食(高塚の正屋)→高塚地蔵尊参拝→紅乙女酒蔵(胡麻焼酎)見学試飲と庭園散策→柿狩り→筑後川温泉桑之屋に旅装を解く
② 桑之屋→高速道杷木IC→広川IC→八女茶美緑園試飲→久留米織工場見学→昼食(羽犬塚駅前 日若屋)→柳川蒲鉾処せきや工場見学と試食→味の素工場見学→八女IC→熊本IC→熊本市民会館で解散

少し欲張りな旅程でしたが、悠然と流れる筑後川に耳を傾けながら、溢れる湯の香に浸り、宴席も大いに盛り上がった、1泊4食の楽しい旅でした。

- ④ 新年会＝1月25日(水) 熊本交通センターホテル6階 菊の間 12:00～

参加38名・・・飲めや歌えの楽しい宴会でした。

2、会の現状 平成17年4月16日に96名(男性48名、女性48名)で発足した会も、平成24年1月1日時点で55名(男性28名、女性27名)と漸減し、時の移りを実感しています。

本年度に13期OB会員としては初めての悲しい別れがありました。このような中でも喜ばしいことは、事情で一時退会された方が昨年に引き続き本年度も2名再加入して戴くことであります。

会にとって喜ばしい慶事だと歓迎し、更なる加入をお願い致します。

3、会からのお知らせについて

通信費節約などの観点から、他期の研修の案内などは班選出の役員さんに通知し、役員さんに班員の取り纏めをお願いしています、どうかご協力をお願いします。

4、さわやか大学院4期生(平成24年1月20日～25年1月7日)について

13期からは11名の応募がありましたが、女性8名が合格し受講されています。

・・・旅行記・・・

広重信子

「おはようございます。日本晴れではないけれど天気にも恵まれました。今から出発します。」
と言う吉田会長の挨拶から23年度の1泊2日の旅は始まった。参加者は男11名、女11名の22名。

もともと、卒業から6年を経た仲間同志で良い雰囲気であったのを、更に和やかにしたのが会長が準備していたゲーム、数々の色紙で作った緻密な折り紙や切り紙。後から可愛い袋に入れた飴まで回ってきた。

笑い声を乗せたマイクロバスは、いつの間にか高速道路を降りていた。道の両側に黄色く色づいたイチョウ、心なしか例年と色調が違うように感じた。

やがて、サッポロビール日田九州工場に到着。ここで見学コースを通り窓越しに流れ作業を見学した。広いスペースに人は一人ないし二人。それから工場内のビヤホールで試飲。出来立てのビールの味は格別のような。次は昼食、会場までは約30分。

高塚地蔵尊の門前、立ち並ぶお土産屋さんの一つが昼食の会場になっていた。「正屋」と言う。店先に並べられた土産物をかき分けるようにして進んだ先に畳敷きの食堂があった。窓から外を見ると、坂道が多くその坂道のちょっと平らな場所に位置している。風が冷たい。出て来た食事は温かくておいしかった。昼食後、高塚地蔵尊にのぼって参拝し、お土産屋さんの街を一巡り。似たような物が並んでいる中に珍しい物があった。笑い猫。人が手で縫いぐるみのような猫に触れると、あっちこっちに身をよじる様にして笑い転げる。笑うという所作は見る者をなごませる。13時バスは次の見学場所へ向かった。

やがて、収穫を済ませた葡萄や梨の果樹園、山一円に広がるオレンジに輝く柿を見ながら少し入った山あいには次の見学場所、紅乙女酒造はあった。(福岡県久留米市田主丸)案内役の男性がひとしきり喋ったあと、貯蔵庫の前に立って、オゴソカニ「開けドア・・・」と声をあげた。すると、重そうな扉がスルスルと開いたではないか。何処にどんな仕掛けがあるのかと、きょろきょろと見回して見たがわからない。貯蔵庫の中には天井に届くほどの筒状のタンクがずらりと並んでいた。扉を閉める段になったとき、一人の女性が扉に向かってあの男性と同じように「閉まれドア・・・」と唱えると同じようにスルスルスルと扉が閉まった。

しばし、物語の中に迷い込んだようで面白かった。

その後、ゲストハウスでお決まりの試飲。何種類もの焼酎があり、焼酎を「祥酎」と表現しているものもあった。ゲストハウスを出て右側の道をたどっていくと、その道は鬱蒼とした林の中へと続き、遊歩道の行き着いた所に巨峰ワインの試飲コーナーがあった。

紅乙女酒造を出て約10分で柿園に到着。柿狩りを楽しみ試食をし、重い重いと言いながらお土産の柿を下げてバスに乗り込み、いよいよ今夜の宿へ向かう。



一夜の宿、福岡県うきは市浮羽町の「桑の屋」は老舗の旅館であった。割り当てられた部屋に入り、窓を開けると眼下に筑後川。水はゆるやかに流れ、川下り用の小船が岸边につながれている。対岸には人々の営みを感じられ、目を転じると遠くに耳納連山(ここが一番いい部屋ね)と喜びあった。その夜の宴会も会長の挨拶で始まり、それぞれが芸を披露し、楽しんだ。

二日目、桑の屋の前で記念撮影を済ませ出発した。まず、八女茶美緑園で、上手なお茶の入れ方を伝授してもらい、二番目の久留米織工場で機械化された織物の工程を見学した。昼食は日若屋、出来立ての料理が次々と現れ、自家製の漬物も美味、旅の最後の食事が豊かなのはうれしい。

次は、柳川かまぼこ処せきや。例によって見学コースを巡り試食、販売コーナーへ。ここでは買い物をする人の姿が多く見られた。

見学場所の最後は、世界最大級のアミノ酸工場と銘打つ味の素工場(佐賀市諸富町)。広大な敷地をバスで移動し説明を受け製品を見せてもらった。

さあ、これから一路熊本へ。16時13分ほぼ予定通り熊本市民会館前に到着した。こうして旅行は無事に終わった。

この旅行は、計画から運営まで寺本事務局長に負うところが多い。それに、正副会長の気配りも大きかった。感謝、感謝。

13期OB会「新年会」

担当 内尾尚子・山下恵子

平成24年1月25日(水)、交通センターホテル6階の「椿の間」で開催。参加者38名。計報も入り、黙祷の後開始、皆さん元気で明るく乾杯。お喋り、カラオケ等々で盛り上がり久し振りの出会いを楽しんでおられました。担当ながら馴れない私はうろうろするばかり、先輩の内尾さんに頼り切りの状態。

しかし乍ら皆さんの好意的、積極的なご協力にて盛り上げて頂き、有り難く感謝でした。二次会も皆さん楽しまれた様です。

次回に備え、健康維持に心がけて頂きたいと願っております。有難うございました。



・・・熊本城に行きましょう・・・

5班 佐藤康治

日本に48あるお城の中で3名城（熊本城・大阪城・名古屋城）の一つである熊本城が、名城と言われるのは、石垣の立派さにあるそうです。

その石垣は八合目あたりまでゆるやかなカーブになっており、誰でも簡単に登れそうに見えますが、それから上が急に反り返って垂直になっており、いかに勇猛な敵の武者でも到底登れないと言うところからこの築石法を「武者返し」と云われております。



この石垣の積み方は築城当時から評判で、多くの大名達が工事現場を見せて欲しいと頼んだが、清正は「戦闘の要塞として築く石垣は秘中の秘、簡単にマネされては困る」と外から見えないように幕を張り、その中で工事を行い秘密を守るために石工達からは「いっさい他言無用」の起請文(偽りのないことを神仏に誓って書いた証文)をとったとの事です。石垣の石は花岡山、独鈷山等の安山岩で井芹川や坪井川を利用し、船で石を運搬した。その数は27万個～30万個と云われています。ゆっくりと見て廻るだけでも清正公の凄さがわかると思います。

次に天守閣、宇土櫓に登って人口73万人の熊本市街地の風景を眺め、遠くに阿蘇中岳の噴煙を見たときには！よかった！と思うでしょう。その間に新幹線がゆっくりとした速さで走って行くスマートな姿にお目にかかれば幸運だったと満足してもらえそうです。

観光客の人達も息を弾ませながら天守閣、宇土櫓に上がって第一声が！わー凄い！と言って見て廻り、阿蘇はどっち、と賑やかに語り合っています。

次に本丸御殿、総工費54億円の建築物で、入場者が5百万人に到達したと報じていました。城内では四季折々お城まつりを開催し郷土芸能の発表会があり、公民館等で趣味の会の発表会もあり、多くの人が歌ったり、舞ったりして観光客を喜ばせています。

お城でゆっくり、のんびり楽しみましょう。

・・・台湾を旅して・・・

9班 下原延子

9月16日から三泊四日のツアーに参加しました。熊本空港から台北桃園空港まで2時間。

一日目は故宮博物館の素晴らしい収蔵品を、日本語のうまい李さんの博学とユーモア溢れる案内で見て廻り、その日は台中泊。

二日目は台中市内観光。まずは、宝覺寺の大仏像。戸外にでんと座られたその大きさと、にこやかな姿に思わず歓声をあげました。澄清湖や蓮池潭の工夫された色彩豊かな美しい風景も立ち



去り難いものでした。次に蓮池潭にある龍虎塔。龍の口から入って虎の口から出ると悪行が帳消しになるとかで私もくぐって来ました。



三日目は国内線で花蓮へ。太魯閣峡谷を観光しました。両側に迫る大理石の壮大な絶景は将に圧巻。下には立霧溪の急流が青く白く20キロも続きます。阿里族の唄声にも魅せられ、思わず、病氣平癒、健康維持という高価な石(ブレスレット)を買ってしまいました。これで娘が元気になって

くれるなら安い物と呟きつつ・・・

四日目は蒋介石前総統のメモリアルホールや、忠烈祠に行き衛兵交代の様子をみて、若い衛兵の一糸乱れぬリズムの動きに観衆の溜息が聞こえました。体力的に最後かなと思った海外旅行でしたが、プレゼント一杯でした。



一番感動したのは、最初の日本の為政者が、真心をもって台湾の開発に当たられたということです。その徳を慕って今も手厚く祀られた墓や、日本名の村や道が残っていました、奇しくも帰国した19日は、東北地震災害にいち早く多額の義捐金を送り、ボランティアに駆けつけた台湾の人々に感謝の思いを伝える日本の青年と、出迎えの台湾の人々との交流があった日でした。あんな小さな国がアメリカよりも多額の義捐金を集めて日本を心配してくれたその重い、友情に私達はどのように応えたのでしょうか。

私達は改めて感謝の思いと友情の絆を深めていかなければならないと思いました。

台湾の造型物、観光物は尊大さではなく庶民的で明るくあたたかであったことも、ライチのワインに親しみながら振り返っています。また旅に出たくなりました。

・・・モデル・・・

内尾 尚子

言葉だけ聞くと、スタイルのよい若い人が独特の歩き方で、流行の服を観せるのを想像する。しかし、70歳を過ぎてもずん胴でも出来るモデルもあるのである。

家のすぐ近くに着付け教室がある。生徒さんが毎年15名位夜間に習いに来ている。20代～40代だが、励みになるように・もっと意欲を出すようにと年に1回発表会が行われている。その時に年寄り代表として頼まれている。毎回テーマがあって、先生から「あの着物とあの帯」と指定されるので当日はそれを着る。

早く着付けを終わったモデルさんから順にステージの歩き方、あいさつの仕方、後姿を見せる位置、立ち止まる位置等を指導する役もする。昨年はアメリカから小学校の英語教師として来ているかわいい女の子もモデルの一人だった。振袖を着ていたが、うれしさのあまりステージの中心で2・3回楽しく回った。200名近い客席の盛り上がりはすごく、例年になくにぎやかだった。夕方まで上機嫌で着ていた。



今年も、秋ごろの予定だそうだが「日焼けしないで下さいね」とか「背すじを真直ぐにして下さいね」とか車の窓から注意があるので買い物の途中でも気がぬけないしかし、もうそろそろ卒業したいと思っている。

編集後記

平成17年に発足した13期OB会も、年月を重ねる毎に会員数も減り、一抹の寂しさを感じます。さて、会報7号も皆様のご協力のお陰で無事に発行することが出来ました。

ありがとうございました。 会報担当 永溝

